

WAでの3週間

1. WAでの生活について

日本と違うのは当たり前であるが、毎日が初体験の連続だった。

バスに乗る、電車に乗る、買い物をする、どれをとっても初めてでももちろんであるが英語を使って会話をしなくてはならない、正直最初は店員の言ったことが速すぎて理解できなかったが3週間たてば笑顔で会話できるようにはなった。それでも完全に内容は理解できなかった。

オーストラリアの人は基本的におおらかなで親切な人が多いので困ったら人に聞けばどうにかなった。また治安がいいので一人歩きは大丈夫である、しかし夜はさすがに控えたほうがいい。夕方に一人で歩いていたら後ろから来た若者が乗る車に、通り際に大声で何か言われたのが1番怖かった思いでだ。

だが金曜日のPerthは9時までお店をやっていたり広場で屋台が出ていたりとすごく楽しかった、またこの日は一人で夜遅くまで町を歩いていても安全だった。

私はせっかくの海外なので一人でいろんなところに行こうと考えていたので **hirallyharber** に行ったり **fremantle prison tour** などに一人で参加した。一人でいると現地の人に話しかけられたりして楽しかった、また困ったときに自分から話しかけなくてはならないのでそれもすごく楽しかった。



特に食事するときはできるだけ話さないと食べられない所や買い物ができないお店を選んで入ったりした。また5時にはどの店も閉店するのでちょっと食べて帰ろうと考えると苦労した。

物価は日本よりも高い、正直買い物する気はなくなった。だからといって現地の食べ物などを食べ惜しみしなくて食事は自由にしてた、だがほんとに金額は高かった。

また乾燥大国なので埃が酷かった、砂と埃が舞っていて家の家具とかにはすぐに埃がたまっていた。

日本では全く平気だった鼻炎も3週間ずっと悩まされた。薬はちゃんと強めのものを持っていったほうがよかった、病院で処方されたやつに加えて市販の強めの薬も持って行っておけばと後悔した。

そして日差しがすごく強いので毎日日焼け止めを塗った、アネッサのSPF50+++を持って行ったら2週

間で終わったオーストラリアには SPF30 までしか売ってなかったしかも高かった。

結局最後の 1 週間は何も塗らずに過ごした、しかし 3 週間で気になるほど焼けはしなかったのですごく悔しかった、せっかくだからもっと焼きたかった。

帽子やサングラスをした方がいいとすごく言われたが意味がよく分からなかったのではほとんどしなかった。でも焼けて首筋が痛くなったりはした。しかし日本に帰ってきてから誰にも焼けたねとは言われなかった。

生活の足は基本バスだった、だいたい時間通りにちゃんとくるのですごく便利だった。土日は 1 時間に 2 本なのでちょっと気を使った。電車は 10 分か 15 分に 1 本は来るのでこちらも重宝した、特に fremantle から Perth には no charge で行けたので何回も使った。料金表はバスに張ってあったがスマートライダーを使うとまるで意味がなかった。

またバスは夜 11 時まででは動いていたので夜遊びはやろうと思えばできた、しかしバスの乗り継ぎの関係でもっと早くなることもしばしばだった。

2. 授業について

日本でテストを受けてその点数で授業のクラス分けをした、そのクラスで 3 週間授業を受けたが自分にはものすごく簡単で正直つまらない授業だった。思いのほかクラスの人が喋れない人が多かったからだ。またクラスが中の下だったこともありクラスに居た人もほとんどが私達のような研修できた日本人だった。外国の人は 3 人だけだった、みんな私なんかよりも年上でひじょうに驚いた。それでもクラスの人とは先生も含めてみんなでよくしゃべった。

午前と午後で先生が違い午前の先生が病気で最初代わりの先生が教えてくれた、すごく真面目な先生で 2 時間の授業で一回も休憩なくやっていた。

ももとの午前の先生はすごくユーモアな先生でしゃべりやすくいろんな話をした。日本人がたくさん居てどうしてもクラスで日本語を使ってしまうときはどの先生にも注意をうけた。つたない英語で話をしてもクラスの人とは先生も含めて理解するまで頑張って耳を傾けてくれた、おかげで英語を話すことには抵抗がなくなりすごく生活しやすくなった。

授業は会話形式やディスカッションが主でありペンを使わなかった。でも宿題はライティングものが結構出た。

文法も習った、英語を英語で教えてもらうのはすごく新鮮でかつすごく分かりやすかった。説明が分からない時がしばしばあったが聞き返せば何回も説明してくれたし、分かったか確認してくれたのですごくありがたかった、周りが分からない時はすぐに聞いていたのですごく質問もしやすかった。

質問せずに流したままにすると本当に何をやっているのか分からずに困るのがわかっていたので、ある意味質問せざるを得なかった。

授業自体は都市大の英語の授業の C/S とそんなに大差はなかった。

3. ホストファミリーについて

日本に居るときにもらった資料に初めて登録したと書いてあったので、ホームステイを受け入れるのはじめてのお家かと思っていたら経験のあるお宅だった。

自立した娘が 3 人居て最初の週と最後の週は会って 3 家族そろってわいわいした。私のような学生にはホストの方は慣れていて様々な経験もさせてくれた。

しかもゆっくりしゃべってくれてとてもありがたかった、また分からない単語は他の言葉で言い換えてりしてくれて私は家に居てもあまり辞書は使わなかった。

家にはプールがあり 3 日に 1 回くらいのペースで入っていた、深さがだんだん深くなり最も深いところ

では足がつかなくてちょっと怖かった。

映画が好きなホストだったのでシアタールームもありアバターを英字幕でみた、タイタニックも初めて見てすべて英語だったが理解できて感動できた。映画はいろんな種類があって何作か夜にみんなで見た。また家では一人一部屋もらえて自由に過ごしていた、最初の日に自分の部屋の机の上に大学までの行きかたと帰りかた、家のルールが書いてある紙があった。また家に無線R U Nも飛んでいたのも携帯もパソコンも自由に使えた。

風通しが悪く窓を開けると埃が入ってくるが窓を全開にして扇風機をかけて寝ていた。朝起きるとペットショップで聞くような鳥の鳴き声がしてすごくわくわくした。

食事はヘルシー健康志向の食事が多く肉をガッツリ食べた記憶はない、オーストラリアの人にしては少食で夕飯はちょっと大き目のお皿一枚で終わりだった、食事のおかわりもほとんど聞かれなかったのも私が想像していたオーストラリアの食事スタイルとはかなり違っていった。

正直食事は全然たりなくて寝る時間（毎日10時には寝ていた）にはすごく空腹の状態だった、なのでマックに行ったり大学のカフェで買って食べて帰ることもあった。

しかしホストマザーの料理は本当においしかった、3週間居て食事は毎回違うものが出てきた。

外食も1回もせず全部作ってくれた。

お昼はホームベーカリーで焼いたパンでのサンドウィッチですごくおいしかった。お昼は量を増やしてもらえたので同じホームステイの子の1.5倍は食べていた。

たまにタイ米が食事にでておいしくいただいた、この時だけは少しだけ日本を感じていた。

朝食は全日シリアルですが3週間目は辛くなってきた、家にフルーツのストックが多かったのもフルーツでごまかしたり、大学のカフェでドーナツなどを食べたりしていた。

また家は水道水が飲める家だったので生活に特に困惑はしなかった、ただ水が硬水なので水が温くなったときなどはちょっと味が苦手だった。毎日1本ボトルを持って出かけていた、水はすごく高いので重宝した。

シャワーは6～7分と言われた記憶があつたりなかったりだったが時間についてはほとんど何も言われなかった、しかし1日1回は決められていた。政府の方から水は大切になって言われてるの、とは言われた。

しかし好きなときに浴びていいと言われたので本当に自由だった。ただシャンプーとリンスはなかったので自分の持ってきた物を使った、石鹸が途中で無くなったので持ってきた物を使ったらあわ立ちの違いに驚いた。

洗濯物も2日に1回か3日に1回あったので何も問題なかった。最初の頃はどこに洗濯物を出していいのか分からなくてちょっと困った。

土曜日にベットメイキングがあつた、床の掃除は1回もなかったが特に汚れていなかったのも問題なかった。

家にいてお手伝いはしなかった、洗濯物やベットメイクは自分たちのついでだからと言って大丈夫だといわれた。食器洗いもホストファザーが率先して料理より簡単と言ってやっていた。

基本授業が終わるとそのまま帰っていたが、帰宅が5時半過ぎるなら連絡をと紙に書いてあつたが実際しなくても平気だった。ただ食べて帰る日は言っておかないとダメだった、当たり前だが。

4. 英語研修を通して学んだことについて

正直言ってオーストラリアに3週間行っていたからと言って英語が格段に話せるようになったり聞けるようになったりすることはない。

確かに少しは話せるようになったし聞けるようにはなったが、一番の収穫は自分から話そうとする勇気や分からなかったら聞こうとする気持ちを持てるようになったことだ。

何も完璧な英語で話さなくては相手に理解してもらえないなんて事は頭では分かっていたが、オーストラリアに来て体で理解した感じはある。

加えて私たちは英語を話すときに総じて考えすぎだったと分かった。

何も考えずに話すということではなくて、頭の中で文法だの単語だのを考えすぎていたんだと分かった、現地の人は思いのほか簡単な英語や文法を使って話しているすごく驚いた。

またオーストラリアは多民族国家という事もあり、みんなちょっとずつ違うイントネーションの各国の言葉のイントネーションが少し混ざった英語を喋っていた。

それもすごく面白かったしすごく勉強になった。いろいろな人と喋ることが英語の勉強になると考えていたのでバス停の待ちやお店などでなるべく話かけたり、話しかけられやすい雰囲気を持とうと心がけていた、結果勇気は持てるようになったし私が感じていた外国人に対するコンプレックスもなくなった。そして私はこのような体験は一人で様々なところをうろうろしないと得られないと思った。

別に団体行動がダメと言う訳ではないが、やはり大人数でいると私はほかの人に頼ってしまうところがあるので一人行動を頑張ってみた。

今回は40人という大人数で大学の授業も仲間が3人くらい居たのでグループで行動する機会が多くなるべく放課後や休みの日は一人での行動を心がけた。

そして大学にいた学生の勉強意欲の強さに驚いた、なんか自分なんか大学で学んでいますなんて言えないような感じだった、そんなこともあり新年度に向けて自分の学習について見つめ直せた。

しかし何と言っても今回の研修の1番の収穫は異国文化の理解だった。

学校で学んできたものよりも、本当に肌身で感じ理解できたことが1番だった。

本当にこれは実際に現地に赴いてホームステイをして生活をしないと分からなかったと、日本に帰ってきてから心底思った。

また英語学習の重要性も再確認してまた機会があれば様々な国に旅行ではなく短期でもいいから留学してみようと思った。

